

令和7年度



令和8年3月

北海道広尾町

□目次

事業目的	1
事業計画	2
実施報告	3
多様な新規就農を支援する体制の構築	
1 シーサイドハウス施設管理事業	4
広尾の未来を、遊びと学びで育てる、のびのびプロジェクト	
1 公設民営塾開設事業	5
子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業	
1 農山漁村ホームステイ事業	6
2 事後交流と学校給食への農産物・海産物提供事業	7
(1) 荒川区交流都市フェア	
(2) 学校給食への食材提供	
子育て世代支援事業	
1 出産祝い金事業	9
サンタランドの魅力向上プロジェクト	
1 イルミネーション設置・購入事業	10
事業への協賛	12

事業目的

本町は昭和 40(1965)年に総人口が 13,598 人となりピークを迎えたが、1970 年代の高度経済成長期に 2,000 人を超える人口が減少した。その後、人口が維持される時期もあったが、1980 年代後半以降は一貫して人口減少が続いている状況にある。直近の人口は、令和 2(2020)年の 6,387 人（令和 2 年国勢調査）であり、ピーク時から約 50 年で人口は半減した。ここ 5 年間の人口減少率は約 9.1%となっており、国及び北海道と比較して、かなり早い時期から人口減少が進行している。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和 27(2045)年には 3,394 人、令和 47(2065)年には 1,770 人にまで減少すると見込まれている。

人口減少の要因として、本町の出生数は、平成 13(2001)年から減少傾向にあり、平成 12(2000)年の 85 人から令和 4(2022)年は 22 人となっている。社会増減は、令和 2(2020)年から令和 4(2022)年の直近 3 年間の平均がマイナス 80.3 人となっている等、毎年転出者が転入者を上回る状況が続いている。これは、進学や就職を機会とした若年層の転出超過が原因と考えられる。基幹産業のひとつである漁業では、深刻な担い手不足と高齢化が進んでおり、漁業所得の低下や、ひいては地域経済の衰退を招くおそれがある。

今後も人口減少が進むことで、町内会などの地域コミュニティ機能の喪失や、中長期的には、集落が維持できなくなることも指摘されているほか、子どもの教育や遊び場の確保、買い物や交通の維持、医療や福祉の需給バランス等、地域社会における様々な分野に影響を及ぼすことが懸念される。

これらの課題に対応するため、産業の育成と新たな雇用の創出により、地域に活力を与えることを目指すとともに、移住・定住を促進し、継続的な生産年齢人口の確保、社会増につなげる。また、若者の出会いの場や子どもを産み育てる環境を整えることにより自然減を抑制するほか、ひとづくりと魅力的なまちづくりを進め、誰もが居場所と役割を持ち、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出を目指す。

基本目標 1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

基本目標 2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待っています

基本目標 3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

基本目標 4【ひとづくりと地域活性化】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する

事業計画

基本目標1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出事業

漁業・農林業の新たな担い手の確保、新規就業者支援施策の推進、ＩＣＴ、ＡＩなどデジタル技術の導入に向けた支援・検討、重要港湾十勝港を有する強みを生かした港湾関連企業の誘致や定期コンテナ航路の利活用促進、産直港湾としての農畜産品の輸出促進、豊かな食資源・森林資源の活用による地域ブランドの確立や第６次産業の推進による高付加価値化、食文化の伝承など、「海と山の資源」を生かすことにより、各産業に活力を与え、各分野において新たな「しごと」「産業」を創出する。

基本目標2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待ってます事業

海や山など大自然に囲まれた暮らしを満喫できる魅力をアピールし、関係人口の拡大、移住体験と産業・自然体験を組み合わせた総合的な受入体制の構築や、都市部との交流を通じて広尾ファンを全国に増やし、生産年齢人口の確保のために就職などを機とした人の流出の抑制、地域を支える人材の育成を行うことで、移住定住の促進を図り、地域活性化活動の核となる広尾高校の魅力向上、地域と連携した特色ある高校づくりを進め、地域ぐるみで広尾高校を応援する体制を整備する。

基本目標3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援事業

保育園や子育て支援センターを拠点とした子育て支援の充実、子どもを安心して産み育てる環境の整備、子育て中の保護者の負担軽減など、子どもの健やかな成長をまちぐるみで支え合いながら少子化の流れを緩和する。

基本目標4【ひとづくりと地域活性化】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する事業

まちづくり町民みらい会議の開催、まちを学ぶ講座の開設など、子どもから高齢者までがまちの現状を学び、将来のまちのあるべき姿について主体的に考え、サンタランドのまちづくり、豊かな自然を生かした体験型観光を充実させるなど、まちの観光資源に磨きをかけ、町民の力を生かしながら情報発信力の強化に取り組み、地域交通の利便性を確保するとともに、誰もが居場所と役割を持って活躍できる環境を整えることにより、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出を目指し、脱炭素社会の実現やデジタル化など、社会の変化に対応し、生活の質を高めることで、持続可能な魅力ある地域を創る。

》 実 施 報 告

基本目標1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

○第一次産業及び商工業の活性化につながる雇用・起業支援

実施事業1：多様な新規就農を支援する体制の構築

基本目標2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待ってます

○地域拠点としての広尾高校改革

実施事業2：広尾の未来を、遊びと学びで育てる、のびのびプロジェクト

○多様な地域交流による関係人口拡大とまちの賑わい創出事業

実施事業3：子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業

基本目標3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

○子育て環境の充実と支援

実施事業4：子育て世代支援事業

基本目標4【ひとづくりと地域活性化】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する事業

○サンタのまちの新しい観光産業の創出と情報発信の強化

実施事業5：サンタランドの魅力向上プロジェクト

実施事業 1

多様な新規就農を支援する体制の構築

1. シーサイドハウス施設管理事業

■事業目的

農林業の体験実習等の場を整備し、次代を担う後継者の育成を促進するとともに、各種会合、研修、交流のほか、農業実習時の宿泊施設として活用し、農山村の活性化並びに産業振興を図る。

■事業内容

農政推進協議会による「農活チャレンジ」実習生や、「酪農どうでしょう」実習生及び地域おこし協力隊インターン生並びにふるさとワーキングホリデー参加者の受け入れを行った。

■事業の成果

＜令和7年度施設利用者実績＞

総利用者数：99名

総宿泊者数：53名

宿泊実日数計：321日



■今後（令和8年度以降）の展望

本事業を継続することで、研修から就農、定着まで一貫した支援体制を構築し、広尾町での就農や農業法人等へ就職するための環境整備を図り、将来を担う農業者の確保に努めるとともに、持続的な運営体制の構築に取り組む。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
1,965,438 円	1,500,000 円			465,438 円

実施事業2

広尾の未来を、遊びと学びで育てる、のびのびプロジェクト

1. 公設民営塾開設事業

■事業目的

広尾高校生であれば誰でも無料で利用可能な学習塾を開設し、学力向上や進路実現、子どもたちの想像性・自主性・社会性を育み、生徒にとっての広尾高校での高校生活における魅力を高め、地元進学率の向上及び町外からの入学者の獲得を図ることを目的とする。

■事業内容

令和7年度は夏期・冬期の長期休業中に公設民営塾を試験的に開設した。



■事業の成果

<令和7年度公設民営塾開設実績>

[夏期講習]

開設期間：令和7年7月26日～令和7年8月25日

利用者数：26名（1年生：13名、2年生：7名、3年生：6名）

[冬期講習]

開設期間：令和7年12月25日～令和8年1月13日

利用者数：15名（1年生：11名、2年生：2名、3年生：2名）

■今後（令和8年度以降）の展望

令和8年度以降は公設民営塾を通年開設することとしており、生徒募集に向けた広報・啓発活動や塾・高校・町が連携しながら、個々の学力や進路希望に応じたきめ細やかな指導をもとに、広尾高校の新たな魅力向上施策として取り組んでいく。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
11,999,653 円	4,100,000 円	7,000,000 円		899,653 円

実施事業3

子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業

■事業概要

ホームステイをはじめとした子ども農山漁村交流事業を入り口として都市部との交流を行い、関係人口の創出・拡大や将来的な移住・定住の促進につなげることを目的として実施。

本町においては、平成 27 年に総務省から「子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業」に採択され同事業を開始。平成 28 年には地方創生加速化交付金を活用し漁村ホームステイとその関連事業に取り組んだ。平成 29 年からは「企業版ふるさと納税制度」に係る地域再生計画の認定を受け、企業からの寄附金等を財源とした持続的な運営体制の構築を図っている。

1. 農山漁村ホームステイ事業

■事業目的

広尾町ホームステイ受入協議会と町が協働し、東京都内の小学 5 年生を 2 泊 3 日で受け入れることにより、食事や歓談での家族のようなふれあいや漁業・農業体験など、ありのままの農山漁村生活を通して子どもたちの力強い成長を支えるとともに、食や生産現場に対する関心を抱いてもらう。また、本町の漁業者や農業者が受け入れを通して地域資源の価値や魅力を再認識することで、産業振興や地域活性化につなげることを目指す。

■事業内容

東京都荒川区立尾久西小学校の 5 年生を広尾町ホームステイ受入協議会の漁家・農家等が受け入れを行った。各受け入れ先では朝から昆布漁体験や酪農作業の体験等、農山漁村ならではの体験を行った。



農山漁村ホームステイ事業の様子

■今後（令和８年度以降）の展望

令和８年度のホームステイ受入に向けて体制を整え、事業実施の準備を進めていく。

2. 事後交流と学校給食への農産物・海産物提供事業

■事業目的

農山漁村ホームステイ実施後、ホストファミリーの漁家・農家が受け入れた小学校の学校行事に参加し、子どもたちやその保護者とふれあい、農山漁村ホームステイの意義を伝えることで、交流の深化を図る。また、受け入れた小学校の学校給食に本町の海産物や農産物を提供することで、食や生産現場に対する関心の掘り起こしや広尾町産食材の宣伝を図る。

■事業内容

（１）荒川区交流都市フェア

農山漁村ホームステイで育まれた絆とつながりを生かし、首都圏に向けて本町を宣伝する取組として、区が主催する「荒川区交流都市フェア」に参加した。日暮里駅前での特産品販売を行い、当事業のPRを受入家庭と一緒にいった。

[荒川区交流都市フェア]

実施期間：令和７年１１月２日（日）



交流都市フェアでの様子

（２）学校給食への食材提供

農山漁村ホームステイで交流のある荒川区立尾久西小学校の学校給食へ広尾町産食材を提供し、「北海道広尾町と連携した食育推進給食」を３回実施した。

○１１月４日 いなきび・秋鮭・たまねぎ・かぼちゃ

「きびごはん・鮭の塩こうじ焼・ごまあえ・かぼちゃのだんご汁・牛乳」

○11月14日 たまねぎ・かぼちゃ・じゃがいも・秋鮭

「ぶどうパン・パリパリサラダ・鮭とかぼちゃのシチュー・牛乳」

○2月6日 ししやも・じゃがいも

「ごはん・本ししやものフライ・レモンあえ・のっぺい汁・牛乳」



尾久西小学校で提供された給食

■事業の成果

学校の協力もあり、広尾町産の海産物・農産物の魅力を児童・生徒たちに伝えることができた。また、交流を継続することで、荒川区全域に広尾町をPRすることができた。

■今後（令和8年度以降）の展望

本事業を継続することで都市部との一層の交流促進を図るほか、食や生産現場に対する関心の掘り起こしや広尾町産食材の宣伝・販路拡大につなげる。また、事業の運営に不可欠な財源の確保について、企業版ふるさと納税及び個人版ふるさと納税を活用することで、持続的な運営体制の構築に取り組む。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
5,903,225 円	2,100,000 円	3,783,225 円	20,000 円	円

※その他は一般指定寄附

実施事業4

子育て世代支援事業

■事業概要

妊娠期から子育て期までの家庭を対象に、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進し、保護者の育児負担や不安の軽減を図る。

1. 出産祝い金事業

■事業目的

子どもの誕生を祝うとともに、子どもが出生した家庭に出産祝い金を支給することにより、子育て世代の経済的負担を軽減し、次代を担う若者の定住化の促進を図る。

■事業内容

出生した子と生計を同じくする保護者へ、第1・2子 100,000 円、第3子以降 150,000 円を支給。そのうち、50,000 円を広尾町内で利用できる商品券で支給する。

■事業の成果

子育て世代の経済的負担を軽減し、安心して子どもを産み育てられるよう、子育て家庭の支援を図った。

＜令和7年度実績＞

支給人数：10 名

■今後（令和8年度以降）の展望

事業の継続をするとともに、子育て家庭の多様なニーズに対応した支援・サービスの拡充を図る。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
900,000 円	100,000 円	円	円	800,000 円

実施事業5

サンタランドの魅力向上プロジェクト

1. イルミネーション設置・購入事業

■事業目的

例年 10 月下旬からクリスマス時期に実施しているサンタランドイルミネーションにおいて、イルミネーション灯具の設置管理を専門事業所に委託することで安全・適切に管理する。また、設置するイルミネーションはLED のものを購入し、冬期のサンタランドのシンボルとして大丸山森林公園への集客を増やすことで交流人口の増加につなげる。

■事業内容

○イルミネーション設置管理委託業務（業務期間 R7.6.26～R8.2.28）

大丸山森林公園内にあるサンタの家、サンタの部屋、サンタ工房、あずまや、太鼓橋、ブーツ型ゲート、公園内街路樹へのイルミネーション装飾。また、サンタの家周辺ゾーンに円錐型イルミネーションを設置した。

○イルミネーション購入業務（業務期間 R7.6.26～R7.9.30）

LED イルミネーション（100 球タイプ）及びサンタロード用 LED モチーフ（結晶型）を購入した。（白 100 本、シャンパンゴールド 100 本、アクアブルー 30 本、モチーフ 13 基）



イルミネーション全体（ツリー点灯式の様子）



サンタの家周辺イルミネーション

■事業の成果

イルミネーションの設置・購入を継続したことにより、冬期のサンタランドのシンボルとして大丸山森林公園への集客を増やすことにつながった。

■今後（令和 8 年度以降）の展望

冬期以外の期間もイルミネーションを点灯することにより、大丸山森林公園をサンタランドのシンボルとして地域住民や観光客に定着させる。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
4,969,030 円	700,000 円	2,000,000 円	円	2,269,030 円

事業への協賛

広尾町まち・ひと・しごとづくり事業に協賛いただいた企業版ふるさと納税の寄附金額を紹介します。事業へのご賛同に心からお礼申し上げます。

[企業版ふるさと納税]

(順不同・敬称略)

企業名	所在地	寄附金額(円)
株式会社 北口電器商会	帯広市	1,000,000
株式会社 アガルート	東京都	100,000
東日本富士新道路 株式会社	帯広市	200,000
大昭電気工業 株式会社	帯広市	1,000,000
株式会社 アルムシステム	帯広市	1,000,000
株式会社 アルム	帯広市	800,000
株式会社 十勝あすなろ会	帯広市	200,000
有限会社 ユニオン北海道	帯広市	500,000
ホクレン肥料 株式会社	札幌市	500,000
株式会社 モリカワ	東京都	100,000
ホクレン農業協同組合連合会	札幌市	1,000,000
株式会社 さっぽろテレビ塔	札幌市	200,000
株式会社 サン設計事務所	札幌市	希望により非公表
株式会社 丹陽	苫小牧市	
株式会社 セコマ	札幌市	
ほか、協賛企業（希望により非公表）	-	

[一般指定寄附]

(順不同・敬称略)

企業名	所在地	寄附金額(円)
株式会社 ズコーシャ	帯広市	20,000

[企業版ふるさと納税基金へ積立]

企業名	所在地	寄附金額(円)
株式会社 合同資源	千葉県	1,000,000
株式会社 合同資源	千葉県	1,000,000

※防災減災対策の推進

〒089-2692

北海道広尾郡広尾町西4条7丁目1番地

広尾町役場

企画課企画防災係

電話：01558-2-0184

FAX：01558-2-4933

Mail：k-kikaku@town.hiroo.lg.jp